

令和8年版 打ち水白書



令和8年8月1日
打ち水大作戦本部

室内から表に出て、手や柄杓などを使って、水を撒く。地面などに向けて水を打つ。

茶の湯のおもてなしの作法としても登場する打ち水は、江戸時代には庶民に定着していた生活習慣で、土ぼこりを鎮める、場を清める、そして、涼しさを得るなど様々な目的で行われてきました。

みんなでいっせいに打ち水して真夏の気温を2℃下げよう

打ち水は時代の変化の中で、次第に懐かしいもの＝今はもうあまり行われない珍しいものとなっていました。この「打ち水」に着目した取り組みが、2003年にスタートした「打ち水大作戦」（当時の名称は「大江戸打ち水大作戦」）です。

きっかけは、関東圏の電力不足への懸念でした。多方面で様々な対策の検討、省エネの呼びかけが行われる中、水の関係者が考えたのは、夏の電力消費を押し上げる冷房負荷、その要因となる気温への対策。大規模な散水による気温上昇の抑制でした。

水は、蒸発するときに周囲の熱を奪う。この水の気化熱は、東京23区で散水可能と考えられる約280km²（23区の約半分の面積）に散水すれば気温を2℃くらい下げられるかもしれない。

とある研究者の仮説を基に、日時を決めてみんなでいっせいに打ち水をして効果を検証してみよう、という前代未聞の壮大な社会実験の企画が立ち上がりました。

「打ち水大作戦」の誕生です。

同様の取り組みは、瞬く間に全国各地に広がりました。

今も様々な「打ち水」が個人・会社・地域などで行われています。

本書は、全国的な打ち水の動向を日本、いや世界で（おそらく）初めて可視化した試みです。そして、（できれば）毎年の更新を予定しています。

ご覧になられた皆さまにとって、持続可能な未来に向けて、皆さん自身がつくりあげる新たな打ち水大作戦の一助となれば幸いです。

目 次

1. 打ち水の実施状況（打ち水大作戦への参加）	Page 2
1.1 昨年の「打ち水大作戦2025」には、推計956万人以上が参加	
1.2 年代別の参加割合	
1.3 各都道府県内での参加割合	
1.4 打ち水の日々の参加者数	
2. 実施内容	Page 5
2.1 打ち水をした月（月別での実施率）	
2.2 打ち水をした日数	
2.3 打ち水に使用した水の種類・割合	
2.4 打ち水の実施を通じた意識の変化	
2.5 前項で回答した内容を踏まえた行動について	

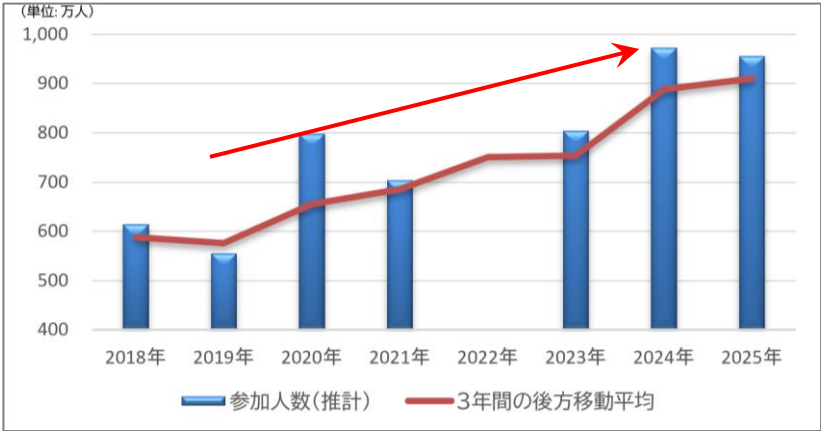
1. 打ち水の実施状況（打ち水大作戦への参加） <打ち水大作戦本部調べ>

■ 調査概要

調査方法	インターネットリサーチ
調査対象	全国15歳以上の男女
回答者数	10,000人（2016～2018年）、10,001人（2019～2020年）、10,000人（2021年、2023～2025年）
割付方法	人口構成比割付 2016～2021年：平成22年国勢調査の性年代別人口比率に基づく 2023～2025年：令和2年国勢調査の性年代別人口比率に基づく
調査実施期間	2016年09月02日(金)～2016年09月05日(月) 2017年10月03日(火)～2017年10月04日(水) 2018年10月22日(月)～2018年10月24日(水) 2019年10月02日(水)～2019年10月04日(金) 2020年10月15日(木)～2020年10月17日(土) 2021年10月15日(金)～2021年10月17日(日) 2023年09月21日(木)～2023年09月23日(土) 2024年10月04日(金)～2024年10月05日(土) 2025年10月30日(木)～2025年11月01日(土)

1.1 昨年の「打ち水大作戦2025」には、推計956万人以上が参加

- ・「打ち水大作戦を知っている」かつ「打ち水をした」と回答した人の割合は、有効回答者数の15.6%でした。
ここでは、打ち水大作戦を知っていて、打ち水をした人を打ち水大作戦の参加者とします。
総人口*の15.6%であれば、約1,900万人が打ち水大作戦に参加したことになりますが、このうち打ち水したのは、一世帯の中で一人程度しかいないと控え目に計算してみると、少なくとも956万人は参加したのではないかと推計しています。
打ち水大作戦への参加者（推計）は、コロナ禍を経て増加傾向にあります。



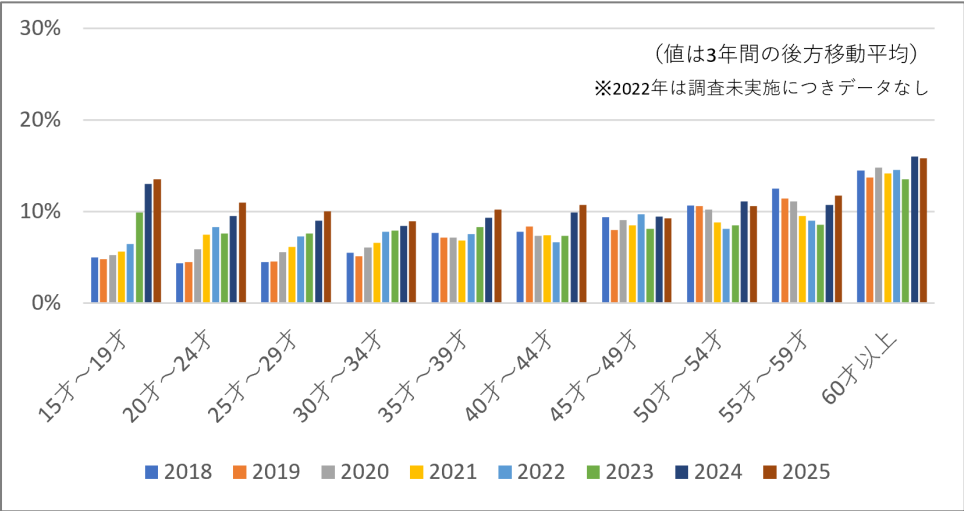
近年の打ち水大作戦参加者数（推計）の推移

※2022年は調査未実施につきデータなし

*2025年の日本の総人口：1億2,433万人（「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（総務省、調査年月2025年、公開（更新）日2025-08-06）参照）
世帯数は、各年1月1日現在の「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」に基づく

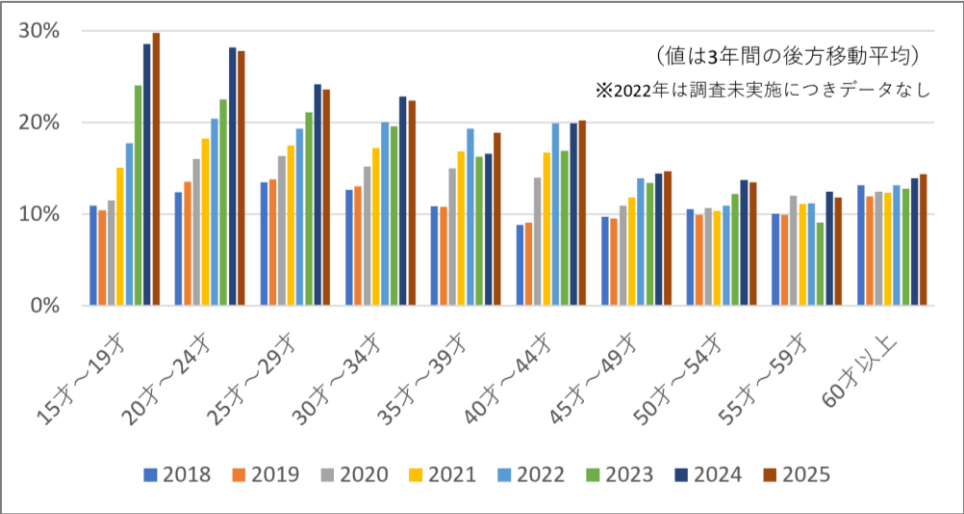
1.2 年代別の参加割合

年代別に見てみると、**10代～30代**などで参加割合が近年上昇し、女性では世代間の差が縮まっています。コロナ禍の時期に女性・ミドル層などで参加割合の減少が見られましたが、近年は回復傾向にあります。



年代別 打ち水大作戦への参加割合の推移（女性）

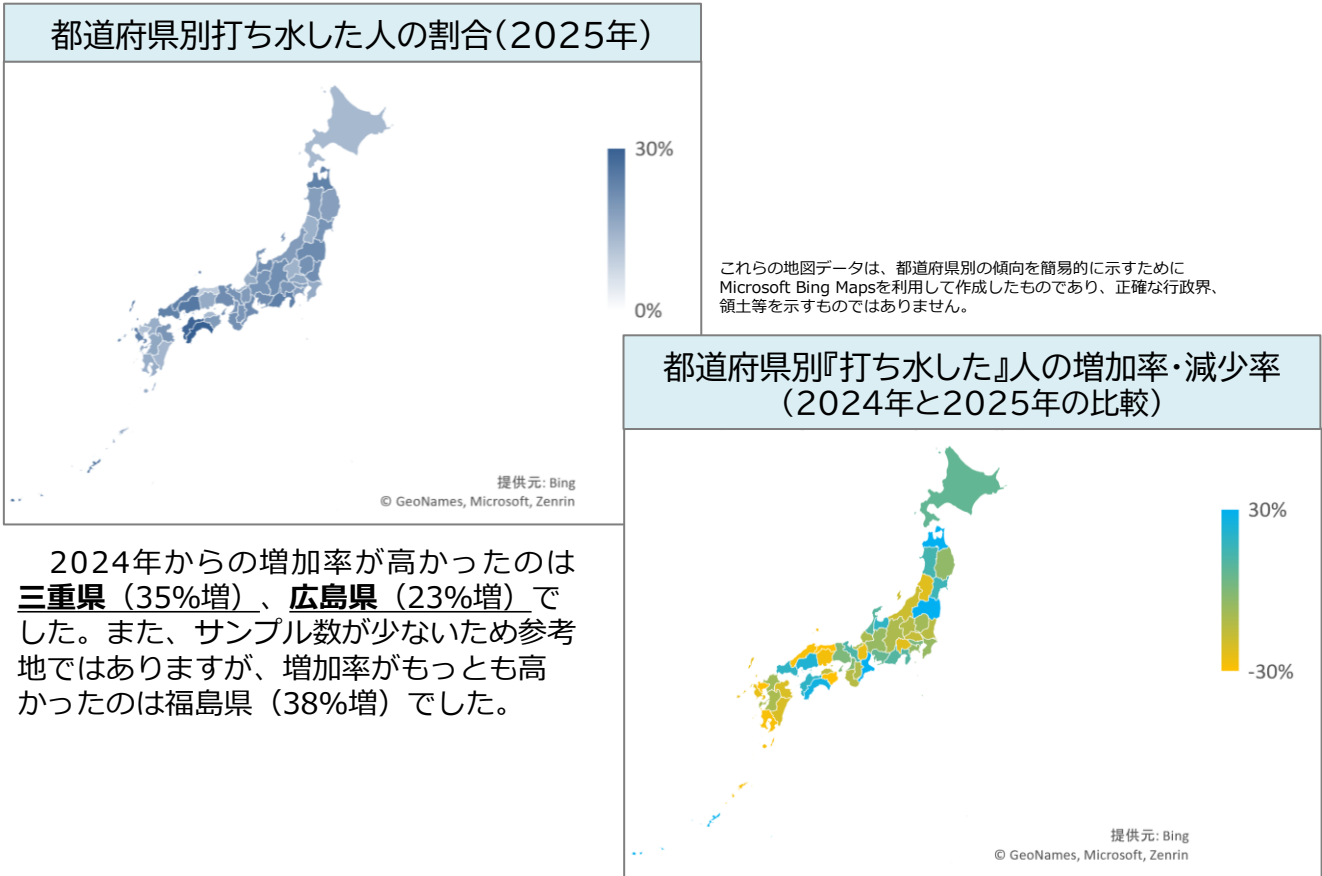
男性では、**10代～40代前半**の参加割合の増加が顕著です。



年代別 打ち水大作戦への参加割合の推移（男性）

1.3 各都道府県内での参加割合

都道府県別で見ると、2025年は広島県（25%）、静岡県（24%）などでの参加割合が高い結果となりました。また、サンプル数が少ないため参考値ではありますが、参加割合がもっとも高かったのは高知県（30%）でした。

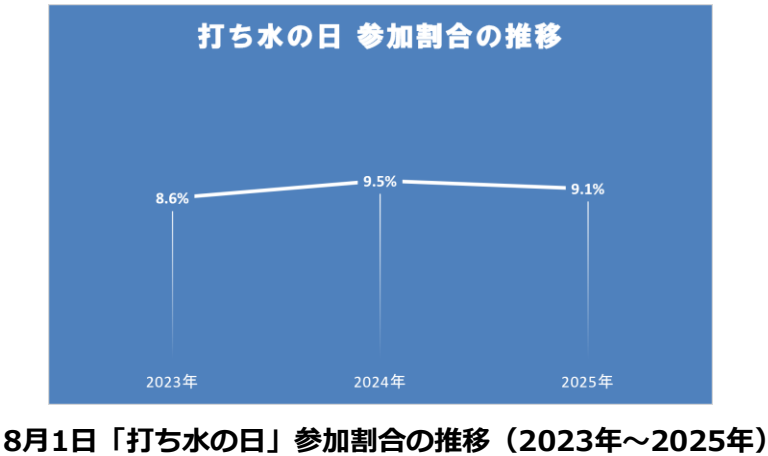


2024年からの増加率が高かったのは三重県（35%増）、広島県（23%増）でした。また、サンプル数が少ないため参考地ではありますが、増加率がもっとも高かったのは福島県（38%増）でした。

1.4 打ち水の日参加者数

8月1日は、「水の日」と定められています。水の日は、年間を通じて水の使用量が多く、水についての関心が高まるこの時期に、私たち一人ひとりが水の大切さについて考え、健全な水循環の重要性についての理解と関心を深める日とされています。

この水の日になんで毎年8月1日は、「打ち水の日」として打ち水の実施を呼びかけています。2025年の「打ち水の日」に打ち水をしたと回答した人の割合は、回答者総数の9.1%、打ち水大作戦参加者の58%（推計557万人以上）でした（天候の関係で翌日以降に実施した場合も含む）。



2. 打ち水大作戦参加者の傾向について

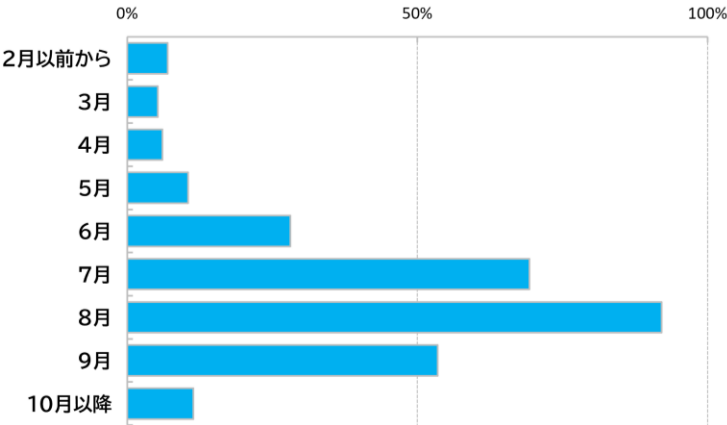
■ 調査概要

調査名	環境に関するアンケート（2021年、2023～2024年）、 打ち水大作戦に関するアンケート（2025年）
調査委託先	マクロミル
調査方法	インターネットリサーチ
調査対象	全国15歳以上の男女
回答者数	112人（2021年）、114人（2023～2025年）
割付方法	人口構成比割付 2021年：平成22年国勢調査の性年代別人口比率に基づく 2023～2025年：令和2年国勢調査の性年代別人口比率に基づく
調査実施期間	2021年10月15日(金)～2021年10月17日(日) 2023年09月21日(木)～2023年09月23日(土) 2024年10月04日(金)～2024年10月05日(土) 2025年10月30日(木)～2025年11月01日(土)

2.1 打ち水をした月（月別での実施率）

気候変動対応型 打ち水大作戦は、1年365日、暑い日は晴れたら打ち水することを呼びかけています。

2025年の打ち水は、5月以降に増え始め、7月・8月の実施割合が最も高く、9月も引き続き高い実施割合となっていました。



打ち水をしたと回答した人の割合（2025年、各月）

コラム: 気候変動対応型 打ち水大作戦



気温上昇などの気候の変化を踏まえ、2024年から季節を問わず、暑い日の打ち水の呼びかけ、気候と水循環／水利用に関する学び・知識の普及に向けた取り組みを開始しました。

2025年からは「暑い日」の指標として、夏日（最高気温25℃以上）、長袖を脱いでTシャツで過ごしたい！の2つを設定し呼びかけを行っています。2026年からは靴を脱いで、ビーチサンダルを履きたい！を新たに指標に加えました。



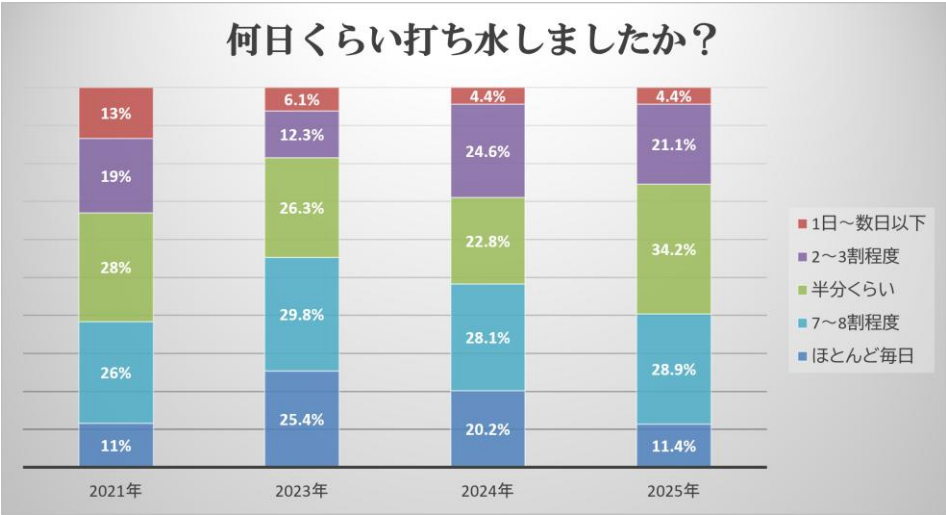
一部のグッズは、https://suzuri.jp/uchimizu_jp にて入手（購入）可能です。

2.2 打ち水をした日数

雨の日や寒い日を除いて半分以上の日数、打ち水をしたと回答した人の割合は、7割超でした（2024年の調査から微増）。

「ほとんど毎日」と回答した人の割合が減少しているのは、2024年から特定の期間を指定していないことが影響していると考えられます。

打ち水をした日数（2025年）	
回答	割合
ほとんど毎日	11.4%
7～8割程度の日数	28.9%
半分かくらいの日数	34.2%
2～3割程度の日数	21.1%
1日～数日以下	4.4%

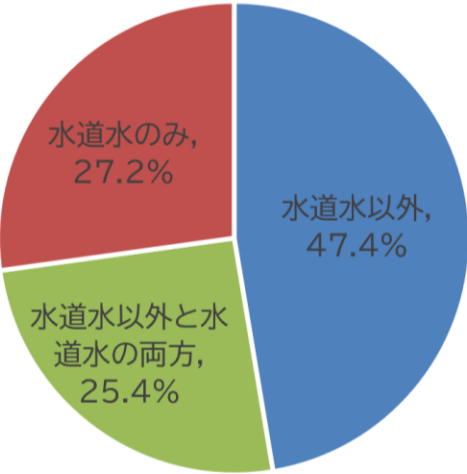


打ち水をした日数（2021年、2023年～2025年）
※2022年は調査未実施につきデータなし

2.3 打ち水に使用した水の種類・割合

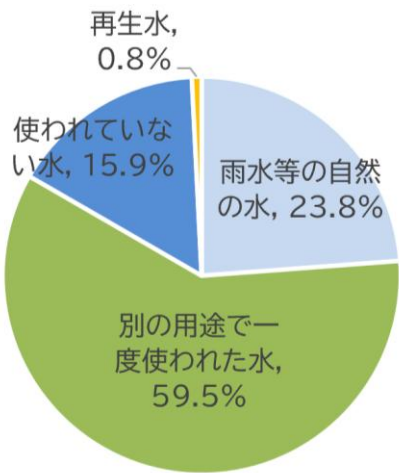
打ち水大作戦では、水道水そのまま使うのではなく、お風呂の残り湯などの一度使った水や雨水などの天然の水資源を利用すること推奨しています。

2025年、「水道水以外の水のみで打ち水をした」と回答した人の割合は、前年（2024年）より増加し、**5割近く**に達しました。「水道水のみを使って打ち水をした」と回答した人の割合は減少し、**3割弱**でした。

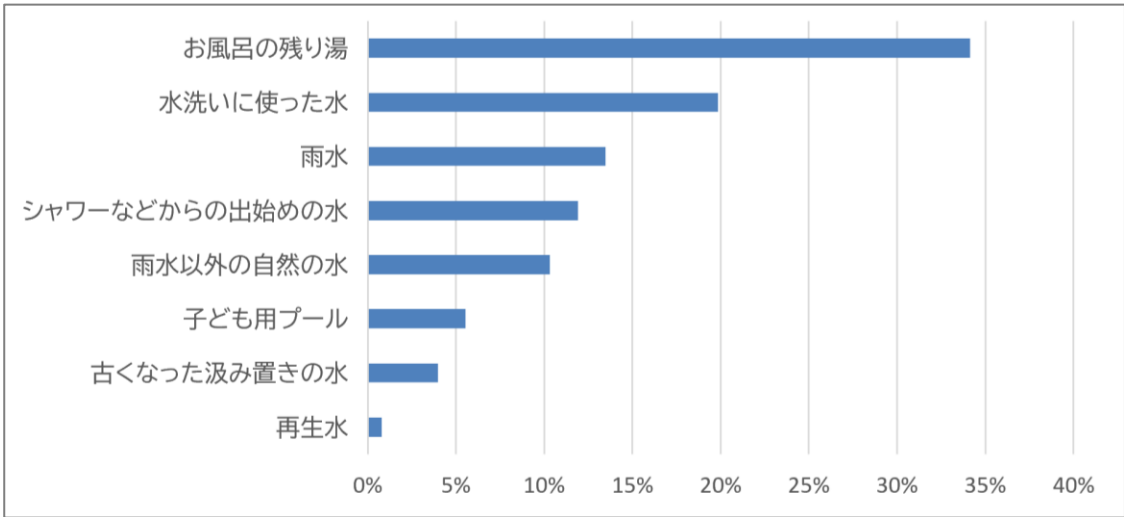


打ち水に使用された水の種類（2025年）

水道水以外の水としては、「**別の用途で一度使われた水**（お風呂の残り湯、水洗いに使った水等）」の割合が最も高く、次いで「**雨水**」や「**使われていない水**（シャワーなどからの出始めの水等）」と回答した人の割合が高くなりました。（年降水量が例年よりも少なかったことが影響してか、「雨水」を使用する割合は、前年（2024年）より減少しました。）



水道水以外で使用された水の種類（概要）（2025年）

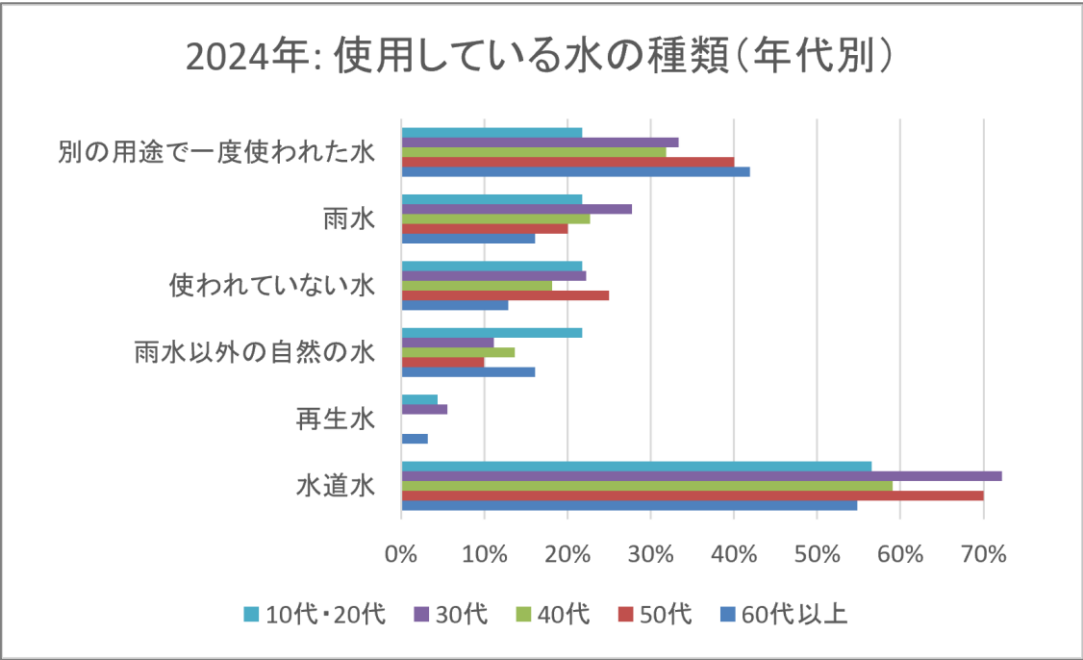
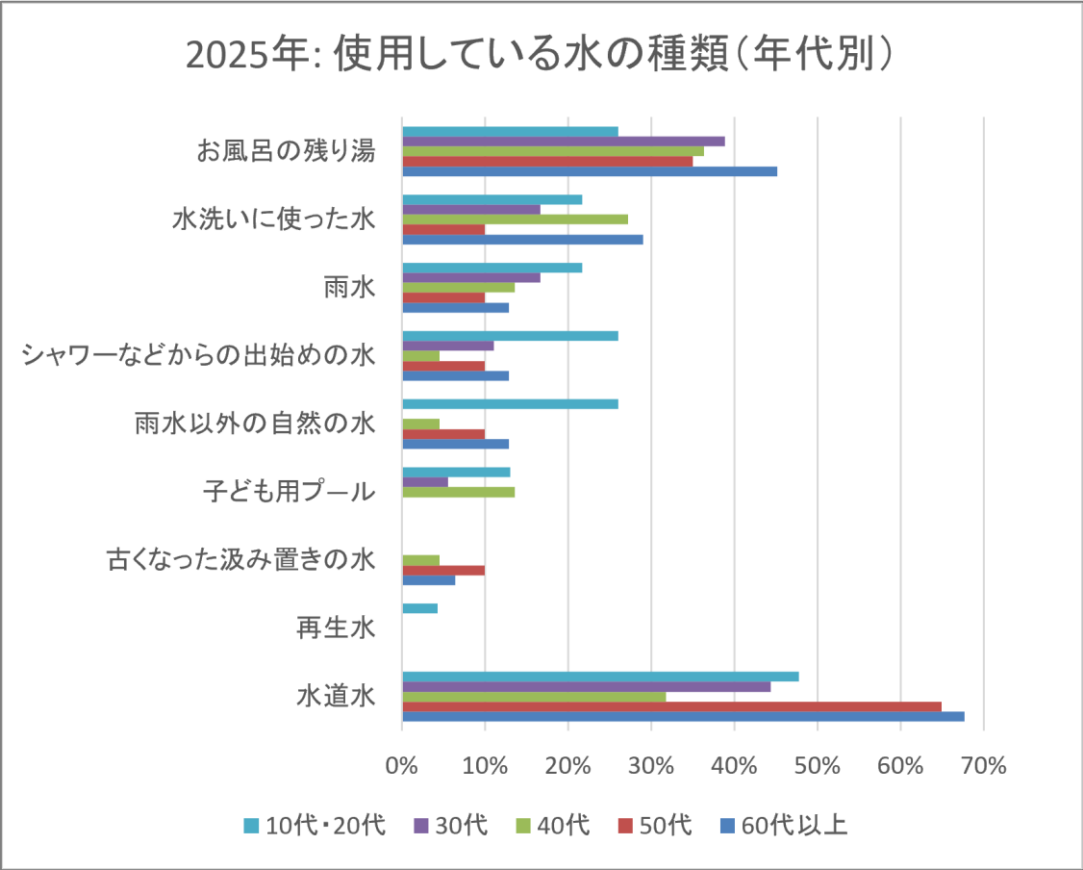


水道水以外で使われている水の種類（詳細）（2025年）

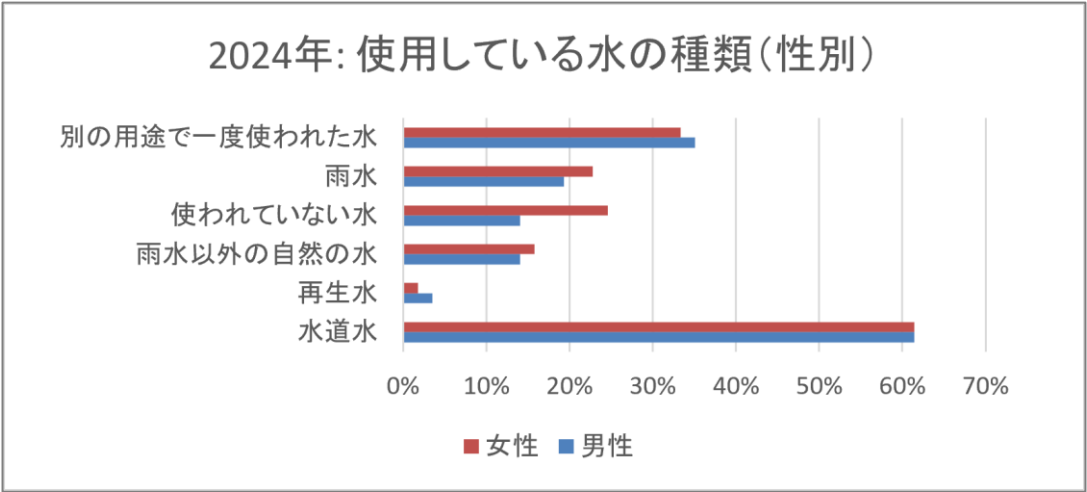
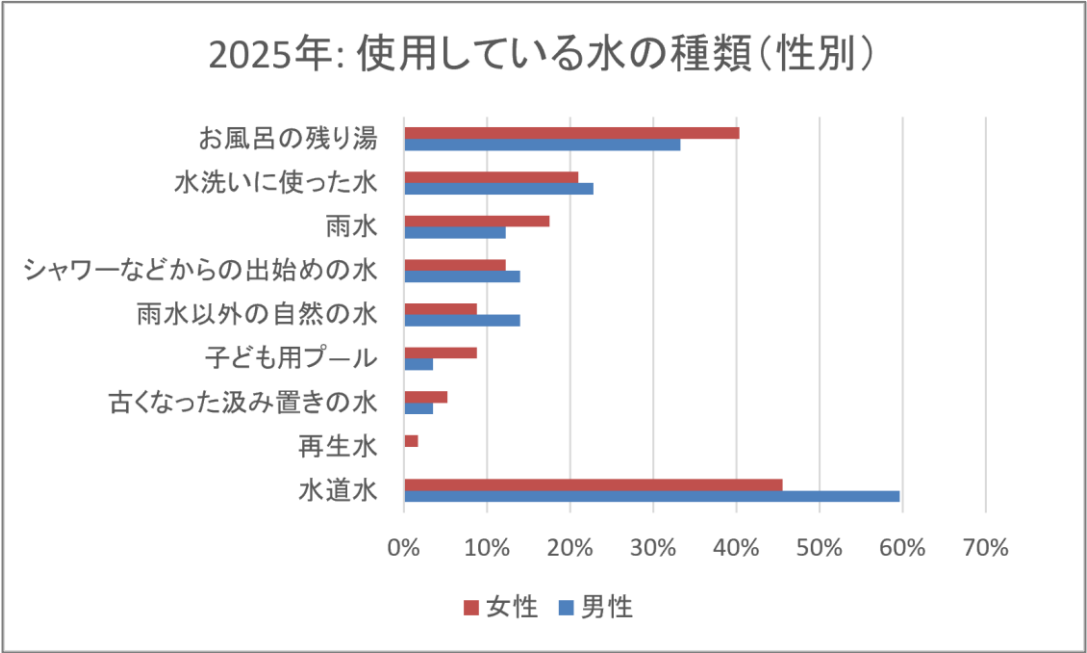
- ・ 雨水以外の自然の水（例：湧き水、井戸水、川や池の水、水路を流れる水など）
- ・ シャワーなどからの出始めの水（温度や水質を調節する際に流す水を貯めたもの）
- ・ 再生水（下水などがろ過・滅菌処理されたもの）

様々な水資源が活用・再利用され、打ち水が行われています。

- ・ 使用している水の種類について、年代別・性別の傾向をグラフにしてみました。
- ・ 年代別の2025年と2024年の結果を以下に示します。
（各年で回答選択肢の項目が異なります。）



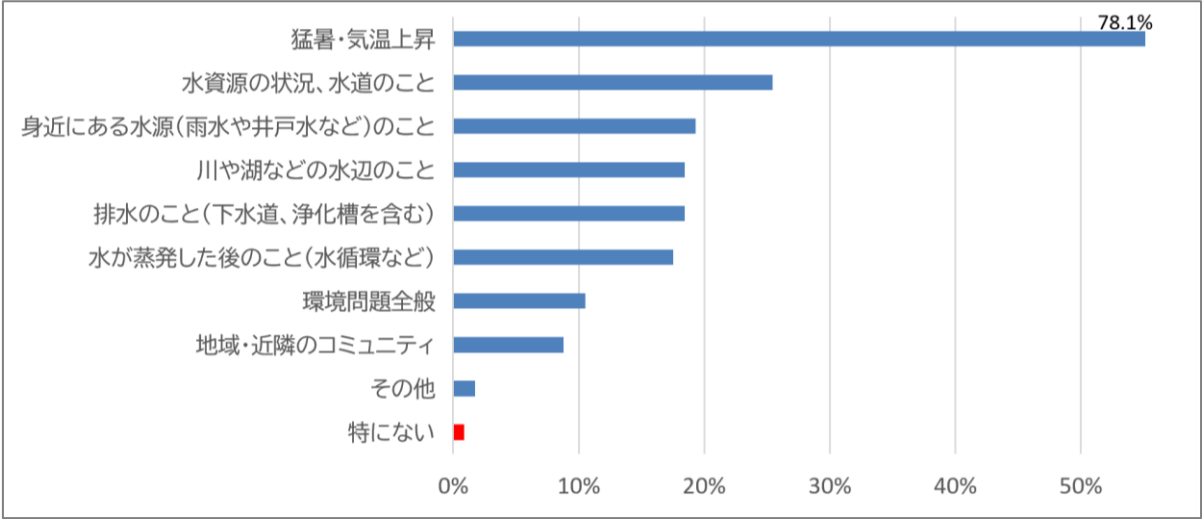
・年代別の2025年と2024年の結果を以下に示します。
(各年で回答選択肢の項目が異なっています。)



➤ 引き続き、「水道水」以外の使用の促進に努めていきます。

2.4 打ち水の実施を通じた意識の変化

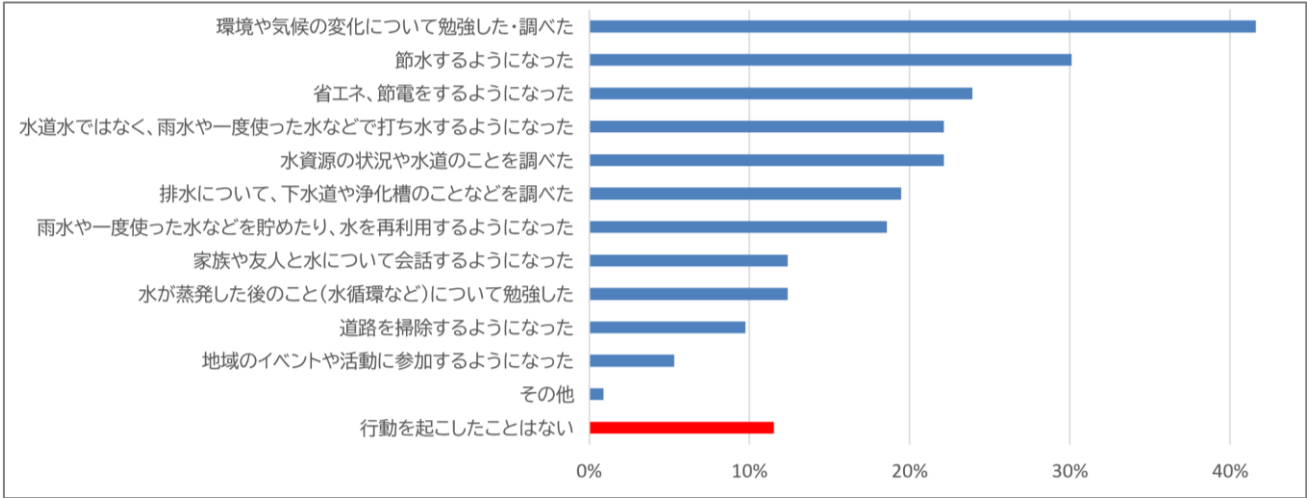
- ・打ち水したと回答した人の**99%**が、意識の変化があったと回答しました。
- ・夏期の顕著な高温を受けて「**猛暑・気温上昇**」、次いで「**水資源の状況、水道**」「**身近にある水源**」「**川や湖などの水辺**」「**排水**」などについての意識の変化を回答しました。



打ち水をする中で意識するようになったこと（2025年）

2.5 前項で回答した内容を踏まえた行動について

- ・意識の変化について回答した人の**88%**が、行動を起こしたと回答しました。
 - ・「**環境や気候の変化について勉強した・調べた**」「**節水するようになった**」「**省エネ・節電するようになった**」「**水道水ではなく、雨水や一度使った水などで打ち水するようになった**」について回答した人の割合が高くなりました。
- 打ち水が、意識喚起のみならず、具体的な行動にも繋がっていると考えられます。



行動を起こしたこと（2025年）

令和8年版 打ち水白書

令和8年8月1日 初版発行

編集・発行 打ち水大作戦本部

URL <https://www.uchimizu.jp>

(事務局: 特定非営利活動法人日本水フォーラム)

©2026 Mission Uchimizu Headquarters